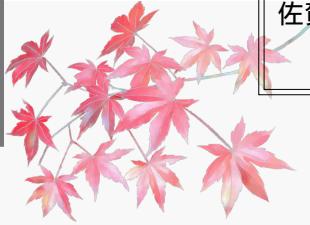


佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 森 清隆



会員各位

会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今年の夏は冷夏で、9月に入って猛暑となり水着の売れ行きもよかったです。体育大会・運動会の練習中に各地で熱中症が発生しましたが、皆さんのところではどうでしたか？

9月に実施いたしました「職務標準表」「意識と実態調査」のアンケート調査にご協力いただきありがとうございました。データの集計結果（速報版）ができましたので、掲載いたしました。

平成15年度 第3回理事会について（要旨）

期日：平成15年10月3日

場所：佐賀市立図書館

（1）第2回理事研修会後の運営関係の経過報告

9月5日 九州各県事務研修員合同研修会（熊本市）（古川副会長、近藤研修部長他）

来年度の各県大会日程調整（一部は未定です）

福岡 6月10日

鹿児島 2月9日～10日（今年度は2月12日～13日）

宮崎 11月11日～12日

熊本 10月下旬～11月上旬

9月16日県教委教職員課、後援依頼（会長、鮎川）

校長会事務局・市町村教育委員会連合会、後援依頼（会長）

佐城教育事務所、講演依頼（鮎川事務局長）

校長挨拶依頼（会長、井崎副会長、鮎川事務局長）

に出向きました。

9月17日井上顧問（神崎中）挨拶（会長、石井副会長、鮎川事務局長）

学校生協・弘済会へ補助金についてお願い（会長、鮎川事務局長）

（10月3日の理事会に補助金を持参され、ご挨拶もしていただきました。）

9月24日文部科学省財務課栗井係長と打ち合わせ（鮎川事務局長）

（2）佐事研の今後の運営等について

<研究部>より

第15回大会へ向けてのおおまかな取り組みの話がありました。

<研修部>より

市町村合併の話が進む中、学校の今後のあり方についてもっと研修すべき等の意見がでました。

<調査広報部>より

アンケートの回収率をあげる策はないか・・・

大会の閉会行事前に3分程度時間を設けることになりました。

事務の共同実施について

児童、生徒の学力向上や不登校の児童生徒数の減少などの効果をあげるために、教員の事務軽減を図らなければならない。事務職員内部での効率化を図るだけでは共同実施の制度そのものが危うくなるのではないか。このまま制度を存続させるためにも各学校、地教委単位で加配の要求をし、また加配がつかなくても独自に共同実施を進め私達が今以上に学校教育に必要不可欠な存在にならなければならぬ。また、事務職員自身の意識改革も必要などの意見が出された。

全事研加盟負担金について（各地区の意見）

前回の理事研修会で県事研の予備費より負担金を納入する件について意見の集約依頼がありましたが、特に反対意見はなかったので、補正予算を組むことが理事会で承認されました。

給与事務一元化について

給与事務処理、旅費請求・支給事務、その他県費諸手当の認定権等について会長名で要望書を提出します。

(3) 第15回研究大会について

- | | |
|----------|--|
| 1. 大会テーマ | 「明日の教育を担う学校事務を創造しよう」 |
| 2. 目的 | 21世紀の学校事務を創造・確立するため、一人一人の学校事務職員が互いに研鑽を積み、積極的に職務を遂行する意欲と資質の向上をめざし学校教育に寄与する。 |
| 3. 主催 | 佐賀県公立小中学校事務研究会 |
| 4. 後援 | 佐賀県教育委員会 佐賀県市町村教育委員連合会 佐賀県小中学校校長会 |
| 5. 期日 | 平成15年10月29日 (水) 9:30~ |
| 6. 場所 | 佐賀県女性センター・生涯学習センター「アバンセ」大ホール |
| 7. 日程 | 略 |
| 8. 参加者 | 公立小中学校事務職員ならびに教育関係機関職員 |
| 9. 講演 | 「今、子どもたちは」 佐城教育事務所指導主事 中野義文
「三位一体改革と義務教育費国庫負担制度の今後」
文部科学省初等中等教育局財務課給与係長 粟井明彦 |

10. 体験談発表

「日本史を楽しむ」 佐賀市立西与賀小学校事務長 土師俊資

12. その他

資料代 500円 (県外参加者等会員以外の方は、1000円)

昼食代 700円

申し込み先 (研修部長) 佐賀市立芙蓉小学校 近藤ひろ子

〒840-0004 佐賀県佐賀市蓮池町小松 1000

TEL0952-97-1175 FAX0952-97-1179

申込締切 各地区研修部員は、参加申し込みと資料代をとりまとめて10月16日の研修部研修会で報告してください。

13. 問い合わせ

第15回研究大会・運営責任者 鮎川慶一

芦刈町立芦刈小学校 TEL0952-66-0279 FAX0952-66-1391

(4) 粟井係長を囲むレセプションについて

第15回大会で講師をお招きします。文部科学省の粟井係長を囲み懇親会を開催します。

期日: 平成15年10月29日 (水) 18:00

場所: 佐賀市「はがくれ荘」

参加を希望される方は、各地区の理事に10月17日 (金) までに申し込んでください。各地区の理事は千代田中部小 野口さん まで名簿を送付ください。

読書のすすめ

果たして夏だったのか??というような今年の夏も過ぎて、季節は秋となりました。秋といえば(もちろんいろいろありますが)読書。しかしながら、日頃忙しくてとても本に手が伸びないという方も大勢いらっしゃるかもしれません。そこで今回、県内多数の学校事務職員の皆様にご協力を仰ぎ、「学校事務職員の愛読する一冊」という事で、本をご紹介いただきました。『書名(著者・出版社)』「ご紹介頂いた方のコメント」です。

『ボイスレコーダーの記録(絶版?)』 「大韓航空機事件の本です」

『坂の上の雲(司馬遼太郎・文芸春秋)』 「戦略と戦術」 「司馬遼太郎さんの名著です。必読です」

『風の旅(星野富弘・立風書房)』 「自然(内的・外的すべてのもの)を感じることができる」

『食卓の情景(池波正太郎・新潮社)』 「食べ物の思い出を通して、時代や人々の本質を語っている」

『超「文章法」(野口悠起夫・中央公論社)』 「これから事務職員も作文力が必要である。この本は学

校事務の文章を書く上で良い参考になります」

『道は開ける（カーネギー・創元社）』 「若い頃読んだ中で、強い刺激を受けた本」

『学校事務（学芸出版）』 「全国の学校事務職員唯一の情報専門誌です。全国の色々な情報を専門的知識が得られます。ぜひとも皆さんに読んで欲しい雑誌です」 「（愛読する）というほどでもないので…」

『アメリカの高校生（小川道子・新日本教育図書）』 「アメリカの高校教諭を5年間勤めた女性教員の体験記で、アメリカの自由な校風が生き生きと描かれていて楽しめます」

『二十億光年の孤独（谷川俊太郎・サンリオ）』 「詩なのですすき間の時間に読める。瞬時に異なった世界にワープできる気がする」

『平成三十年（堺屋太一・朝日新聞社）』 「近未来の社会のシミュレーション小説」

『一秒の世界（ダイヤモンド社・絶版？）』 「日常あまり気にならない身のまわりの事柄も、一秒のスパンでみると新たな印象と驚きを感じます」

『サライ（小学館）』 「そこはかとなく上質で洗練されたこだわりを感じさせる旅雑誌」「旅とか食べ物とか等々いいなあと指くわえつつ見ています」

『（向田邦子さんのエッセイ）』 「文章のリズムがとても潔いし、作者自身の潔い性格も好き。8月22日が命日でしたね…」

以下は平成14年10月28日～平成14年10月31日付佐賀新聞の読者欄特集、「この本が面白い」より抜粋しました。こちらもどうぞ。

『さがの昔話（納富信子・佐賀新聞社）』 「著者が幼いころに父や祖母から聞いたという50話は、どこで聞いたり、読んだりした昔話を佐賀弁で語っている（56才主婦）」

『伝えたい家庭料理（野口和子・佐賀新聞社）』 「料理の手順のほか、佐賀の食に関する情報、生活習慣のことがたくさん書かれています（46才女性）」

『葉隱の名将 鍋島直茂（童門冬二・実業之日本社）』 「まるで大河ドラマでも見ているような雰囲気でとても読みやすいです（37才公務員）」

『AMAKUSA1637（赤石路代・小学館フラワーコミックス）』 「（直茂の孫にあたる元茂公が登場する）とくに活躍するシーンがあるわけではないのですが、とにかく周りから慕われているすばらしい殿様としてかっこよく（ここがポイント）描かれています（同上）」

『坂の上の雲（司馬遼太郎・文芸春秋）』 「日露戦争で活躍した秋山兄弟の物語である（73才僧侶）」

『壬生義士伝（浅田次郎・文春文庫）』 「長男にすぐに読むように言った。彼いわく『一年分の涙が出た』（52才ホテル職員）」

『漂流（吉村昭・新潮文庫）』 「記録小説家として第一人者の作者だけに、その情景描写はち密で、主人公の置かれた状況を見事に再現しています（36才男性）」

『不思議を売る男（J.マコーリアン・偕成社）』 「私を不思議な世界に連れて行ってくれました（49才公務員）」

『黄昏流星群（弘兼憲史・小学館ビッグコミックス）』 「ほとんど主人公は、私たちの世代から上で、男と女の出会い、恋、そして不倫、別れがテーマ（44才女性）」

『はちまん（内田康夫・角川書店）』 「母が入院した病院の休憩室に（内田康夫）先生のが並んでいた。何気なくめくりとりこに（56才パート）」

『恐怖の総和（T.クランシー・文春文庫）』 「10年以上前に書かれた作品だが、描かれている状況は昨年9月の同時多発テロ以来、ますます現実味を帯びている（54才団体職員）」

『江戸川乱歩傑作選（江戸川乱歩・新潮社）』 「恐怖と怪奇におののきながら、一気に耽読した（73才男性）」

『天才の栄光と挫折 - 数学者列伝（藤原正彦・新潮社）』 「この本は天上の人が地に降りて身近に感じられる、いわば天から地へのはしごの役目をしてくれる（65才男性）」

『いま、女として』『愛を感じる時（2冊とも金賢姫・文芸春秋）』 「北朝鮮の子どもたちに童話の本を一冊でも読ませてあげたい。美しいものに感動する心、すべてのものに愛を感じる心を取り戻させたいという一節が、私の心に深く焼きついて離れません（60才主婦）」

『ベッカム（D.ベッカム・PHP研究所）』 「前半が自伝、後半が写真集となっており、にわかファンにとっては読みやすく満足度も高い（65才主婦）」

『人生百年私の工夫（日野原重明・幻冬舎）』 「人生の勉強になるいい本である（78才男性）」

『人生の四季に生きる（日野原重明・岩波書店）』 「まとめは『自ら創る』の第55話で語られています。私の『自ら創る』とは、を考えながら読み返しています（80才男性）」

『禁煙の愉しみ（山村修・洋泉社）』 「これは禁煙のすすめであるが、実は、なにげない日常を旅する冒険談なのである（52才男性）」

『運命の足音（五木寛之・幻冬舎）』 「作者の心の告白と勇気に畏敬の念を覚えた（44才自営業）」

『神楽坂ホン書き旅館（黒川鐘信・日本放送出版協会）』 「脚本家をカン詰めにして原稿を書き上げさせるのに使われるから『ホン書き旅館』という。（略）かつて見た映画、ドラマ、小説の作者がこんな人と分かり、興味深く、読みかけたらやめられない本だ（75才男性）」

『人から「大切にされる人」されない人（斎藤茂太・新潮社）』 「お母さんたちは子どもを大切に育ててほしいとしみじみと思った（83才女性）」

『「運をつかむ人」16の習慣（M.マイヤーズ・三笠書房）』 「この本を読んだからといってジャンボ宝くじに当たることはないが、ツキを呼び幸運を招きたい人におすすめしたい本である（76才男性）」

『虫の葉隠（西沢杏子・花神社）』 「詩への世界への入門書になり、規範書でもあります（66才男性）」

『ばちばちいこか（M.セイラー・偕成社）』 「作者はアメリカの人なのに、いまえよしとさんの関西弁の訳がおもしろい（52才保育士）」

『21世紀こども人物館（小学館）』 「AINシュタインに始まって、古今東西の歴史上の人物が出るわ、出るわ…すっかりはまってしまった（33才主婦）」

回答をお寄せ下さった皆様ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。せっかくの灯火親しむ秋の夜長、「たまには読書で知識と教養を深めてみようかな？」のお助けになれば幸いです。

「職務標準表」・「意識と実態調査」アンケート集計結果（速報）

皆さまのご協力により、アンケートの集計が無事できました。集計のグラフと一緒に欄を掲載いたします。集約数は、200/254です。グラフは100%積上げ縦棒グラフです。項目ごとに値の全体に対する割合を比較します。下から順に、20代・30代・40代・50代となっています。設問別に対して年度順に並んでいます。

《職務標準表》アンケート集計結果

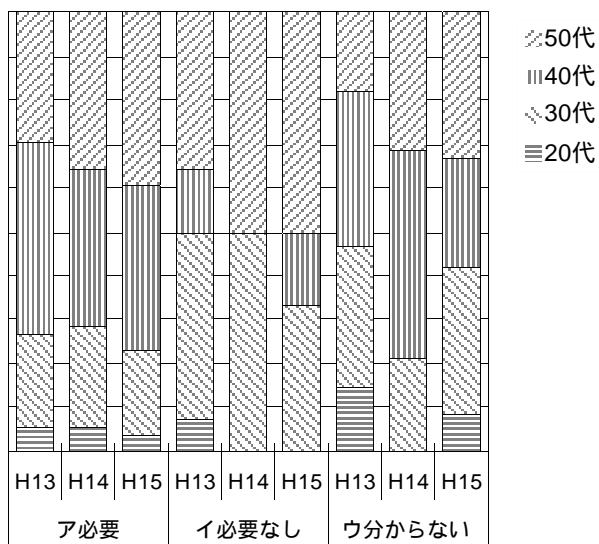
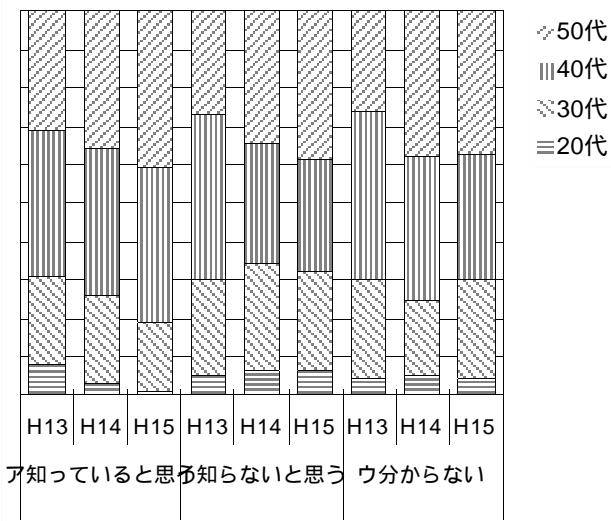
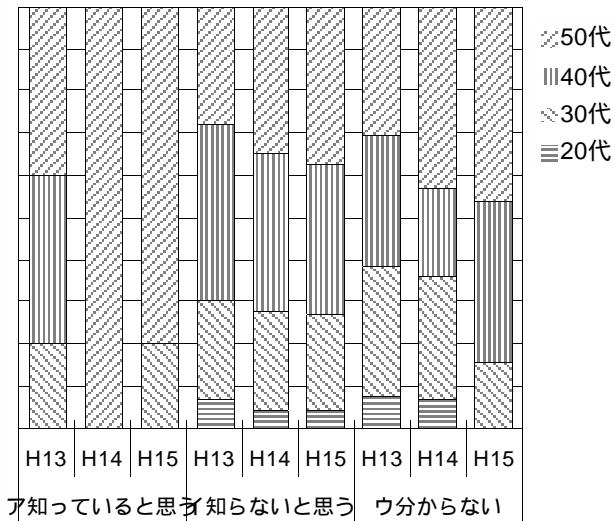
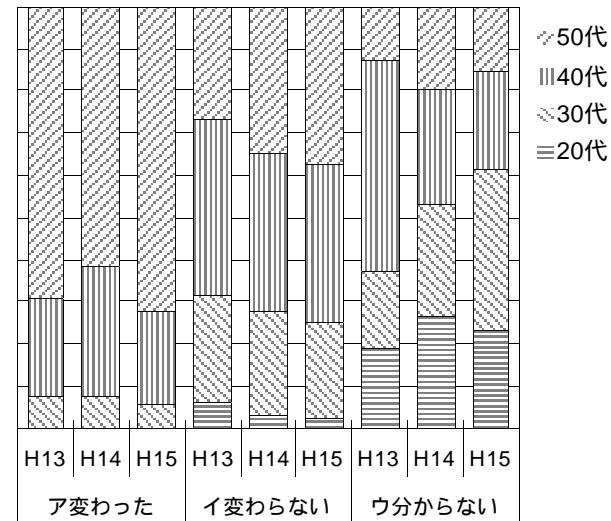
[職務標準表] アンケート集計表												集約数	200/254		
年代別 設問	20代			30代			40代			50代			合計		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
1	5	0	2	29	4	8	56	2	6	58	6	8	148	12	24
2	1	4	2	14	16	11	32	18	14	32	24	16	79	62	43
3	0	7	0	1	38	2	0	59	5	4	62	6	5	166	13
4	0	4	3	1	35	5	4	57	3	13	57	2	18	153	13
5	3	4	/	12	29	/	34	29	/	35	35	/	84	97	/
6	4	1	2	27	2	12	49	2	13	55	9	8	135	14	35
7	0	3	4	2	25	14	4	47	13	6	49	17	12	124	48
8	0	4	3	1	36	4	2	55	7	6	52	14	9	147	28
9	0	7	/	6	35	/	19	45	/	17	55	/	42	142	/
10	6	1	/	30	10	/	51	11	/	55	16	/	142	38	/

【各地区アンケート集計集約数】

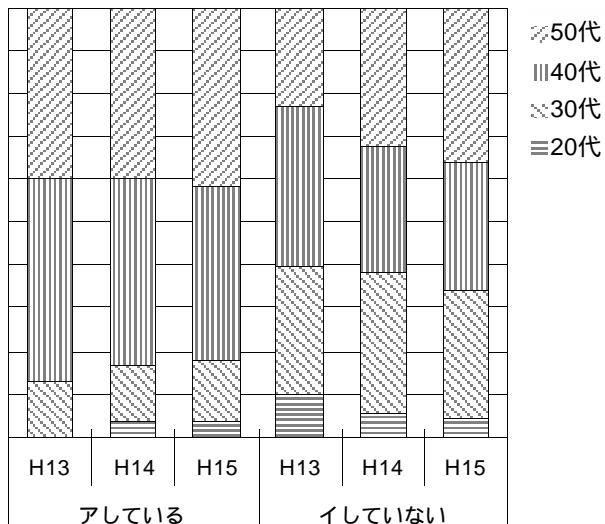
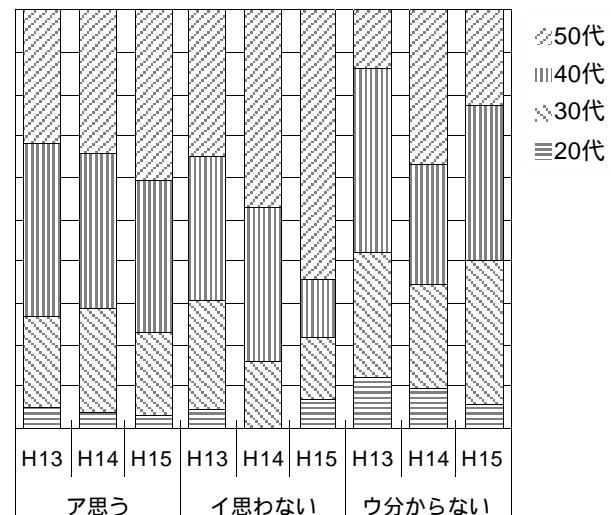
三養基	小城	武雄	多久	神埼	藤津・鹿島	伊万里・西松浦	佐賀市
9	14	16	7	13	5	20	29
東松浦	唐津	鳥栖・基山	杵島	佐賀郡			地区集約数
25	16	13	17	16			200

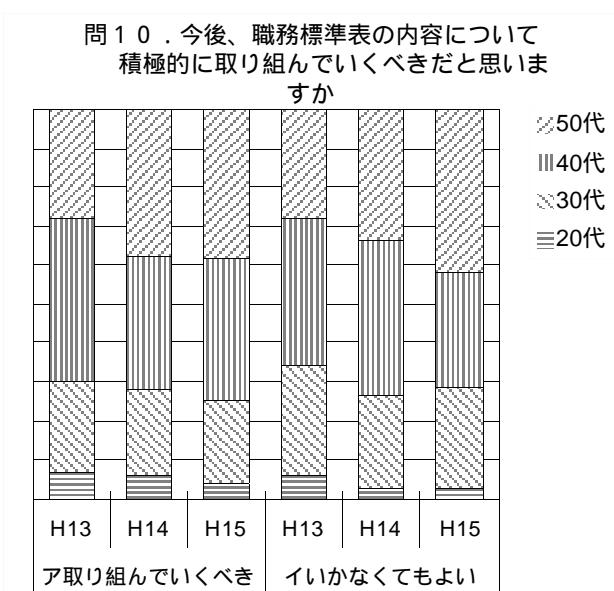
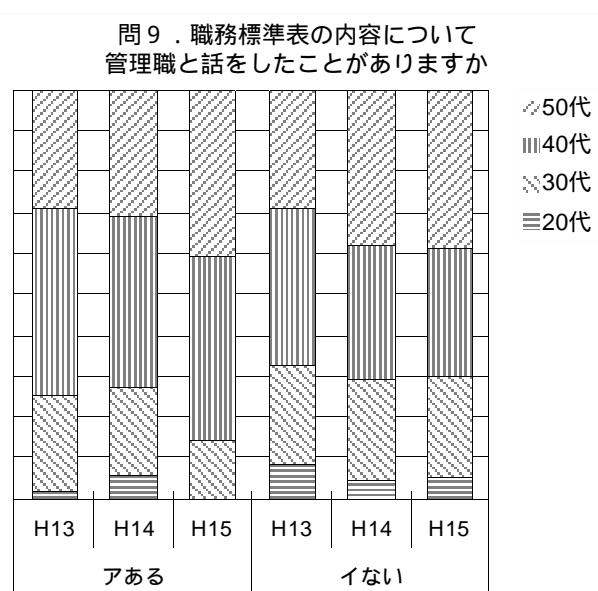
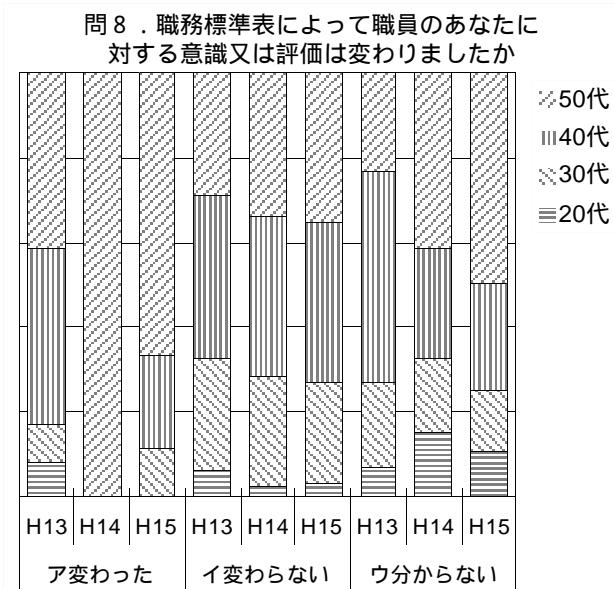
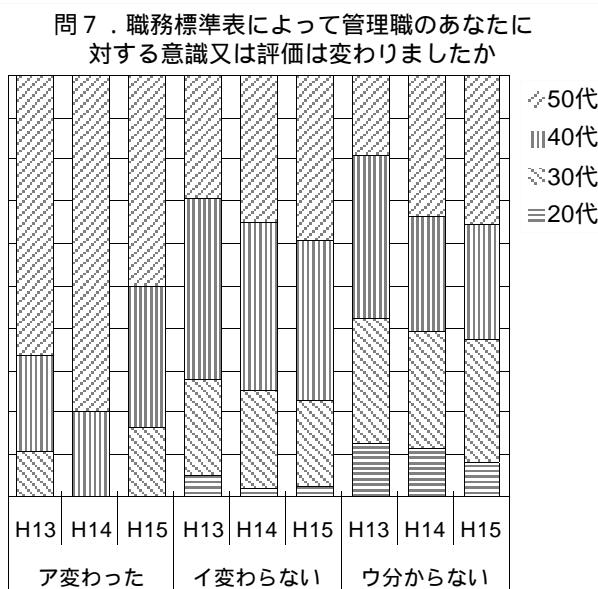
グラフの凡例マーカーがちょっと見にくいですが、ご容赦ください。

問1. 職務標準表の必要性について

問2. 職務標準表が通知されたことを
管理職は知っていると思いますか問3. 職務標準表が通知されたことを
他の職員は知っていると思いますか問4. 職務標準表によってあなたの
職務内容は変わりましたか

問5. 企画・運営委員会へ参加していますか

問6. 企画・運営委員会へ参加する
必要があると思いますか



《職務標準表》アンケート一言欄より

- 武雄市40代：職務標準表をもっと項目をしぼったものにしてはどうか？
- 佐賀市30代：ぜひ管理職と話をしてみたい。ぜひ事務研でも話題になってほしい。
- 佐賀市40代：毎年度初めに、管理職に配付してみてはどうでしょう。
- 佐賀市40代：事務職員の意識改革が先。企画・運営委員会の参加について、学校運営に参加する立場からは必要性はわかるが、予算的立場以外はものが言えない。
- 佐賀市40代：共同実施とリンクして行うべし。
- 佐賀市40代：本人の意識の問題が大きい。
- 佐賀市50代：ことあるごとに県教委から校長へ職務標準について説明指導する必要あり。併せて県事研として事務職員の意識改革をうながすべき。
- 佐賀市50代：管理職に対して職務標準についてアンケートを取ることで、職務標準に対し理解を深めてもらうことができるのではないでしょうか
- 伊万里市50代：職務標準表の内容について積極的に取り組むことは評価できるが、「両刃の剣」「やぶへび」になりはしないか心配な面もある。
- 伊万里市50代：もう少し具体化し説明を加えたものがあれば・・・。
- 伊万里市40代：当初から評価が正反対に別れていた上、現状のままで店晒し状態と言ってもよく、いかにも中途半端でもったいない。学校栄養職員は「栄養教諭」など色々と具体的・着実に動いている。我々だけがとり残されていくしかないのだろうか？

- 杵島郡40代：せっかく作った職務標準表ですが、本当に私たちの地位を上げることになっているの？という思いがします。
- 杵島郡30代：職務標準表で管理職や職員の我々に対する意識が変わるのは現実は年功序列的な姿や事務職員その人だけで見られ方が違っているのではないかと思う。現在の学校は毎年多くの人間が入れ替わっており、仕事上だけでなくもっと深く付き合いをしないとなかなか職員とは溶け込めない。
- 杵島郡40代：今のところ職務標準表はほとんど生かされていない。改善を望みます。
- 杵島郡40代：企画、運営委員会に参加しているおかげで学校の現場がよくわかるようになりました。
- 多久市50代：事務職員が職務標準表に沿った仕事ができるように早急に法的整備をすべきだと思う。
- 多久市40代：職務標準表はただの表にすぎず、その職務をする法的整備や事務職員自身の意欲が重要だと思う。
- 神埼郡50代：企画・運営委員会への出席は認められたが、その条件として、教務に関する事項についての発言は禁止された。本来、様々な立場や視点から、活発に討議がなされるべき企画・運営委員会に差別が持ち込まれた形である。教務に関することは教員だけで決めたい、という教員特有の優越感がよく表れた現象である。
- 唐津市40代：職場の職員にアピールしなければと思っていますが、きっかけがないとなかなか切り出せない問題だと思います。事務研として会員に対してキャンペーンを行ってもらったらひとつのきっかけになると思うのですが。
- 唐津市40代：事務職員が職務について管理職と話をする時、この職務標準表があったので話を進めやすかった。
- 唐津市30代：今年4月に転任したばかりで管理職をはじめ他の職員が職務標準表に関してどういう認識をもっているか分からぬ。職務標準表のアンケートはむしろ事務職員以外の職員に対して行うべきものかもしれない。その上ですべての職員に周知させるべきならば周知させる努力をすべきなのでは。
- 唐津市30代：職務標準表が通知された時は、校長先生と話をした。その後校長先生も替わったが改めて話をするかどうか迷っている。又、職員にはわざわざ話をしなくてもよいだろうと一人で思っているが……。市教委から「県費の事務職員はどういう仕事をしていますか」と聞かれ、この職務標準表を見せたところびっくりされた。たぶん市職員（事務員）の引上げを考えていたのだろうけど、こんなに大変なら……と思いつなおしてくれたかな、と感じた。口ではなかなか事務の仕事を言い表せないが、この表のおかげで他の人に自分の仕事をわかってもらえるかな、と思う。
- 佐賀郡20代：毎年度初め「こういうようになっています」と提示していかなくてはならないのかな、と思いつつ実行していません。それだけの自信もまだ持てないです。
- 佐賀郡30代：学校により、自分の置かれた状況により、職務は当然かわる。だから「標準表」であり、答え10は自分の状況によって答えはかわってくる。
- 佐賀郡40代：内容に取り組んで行くべきだろうが、現在の各校1人体制で、この範囲は全部事務の仕事ですとは、自分の力量からいってとても言えない……。
- 佐賀郡40代：学校管理規則等に文言化する。
- 佐賀郡50代：10（の設問で）行かなくてもよいと書いたのは、教員は私達の仕事に対していくらいっても無関心のようである。
- 佐賀郡50代：共同実施モデルを提案してみては？
- 佐賀郡50代：教育諸活動へ事務職員は参加してきたが、教員の事務活動への参加協業を要請しなかった事務職員自身にも問題があると思う。昔の養護教諭の教諭化運動、現在の栄養職員の教諭化の動き。共に共通しているのは教育の中に位置付けをきちんとしている。教員の中で日常的に協働・協業の活動を毎日やっているのである。事務職員この面で不得意で全部自分でやるか拒否が多い。教員の協働・協業の論理に学ぶべきである。
- 佐賀郡50代：「職務標準表」ではなく『学校事務職員の職務』として規定すべきである。
- 佐賀郡50代：一人配置では、職務標準表の内容の仕事は消化できない。2～3人配置であればOKと思うが……。
- 佐賀郡50代：要は本人次第。
- 小城郡40代：実績を積み上げていくことから始める。
- 小城郡40代：県教委に校長会研修会等でレクチャーしてもらう必要がある。そもそも、県教委の担当も異動でメンバーが入れ替わっているが平成12年当時の人は今は居なくなっている。県教委職員にレクチャーが必要なのかもしれない。
- 鳥栖基山20代：すばらしいものができたのだから、責任を持って取り組んでいく必要があると思う。

鳥栖基山30代：職務標準表をだすのであれば積極的に仕事内容が標準表に合致するように取り組んでいくべきだと思いますが、実際は出す前とそれほど変わっていないようです。実態がそうであれば職務標準表は廃止しても構わないと思う。

鳥栖基山40代：任命権者が校長・教頭・教諭等の研修会時に事務職員の標準表のことをきっちりと通達すべきだと思う。

鳥栖基山40代：職域はかなり広くやっているつもりなので特に関心はない。

鳥栖基山50代：一部に他者を非難し、自己を正当化するものがいる、足元を見ずに他言をいうことなけれ。

鳥栖基山50代：教頭・教務との話し合いで分掌事務を見直してみたい。

三養基郡40代：校務分掌を決める前に、管理職と職務標準表について話をした方がよいと思う。教員を含めた校務分掌についても理解が深まると思います。

三養基郡50代：毎年度始めに校長会、教頭会等で教育事務所長より主旨を徹底してほしい。

三養基郡50代：本来、事務処理業務から判断業務へ重心移動することがこの標準表の目的の一つであったのではないかと思います。現状は事務室のスタッフが少なくなっている中で処理業務に追われています。今後、用務員を含めて事務室内での仕事の分担、責任をはっきりすることが目先の問題として必要ではないかと思います。

三養基郡50代：職務標準表の定着化のために、教育長会、校長会、教頭会への周知徹底を図ってほしい。

三養基郡50代：管理職への周知を具体的に指導 校務分掌の見直し 財務について管理規則の制定、取扱要領制定、校長の専決権など法整備を行うこと。

東松浦郡20代：前任校では、職務標準表について校長先生と話をしたこともあったが、異動してきてからは全くありません。

東松浦郡20代：職務標準表を上手く職員に伝えられる方法を具体的に挙げて欲しい。

東松浦郡30代：県から校長先生へ毎年、何らかの形で話をする機会を設けて欲しい。通知がだされて何年か経つと記憶が薄れるし新任校長先生もでてくるから。

東松浦郡30代：職務標準表は必要だと思うが、その内容範囲は必要最低限でよい。企画・運営委員会も参加する必要はあると思うが、職員会議に必ず参加し、必要なことは報告・連絡・相談しているので問題はないと思う。

藤津・鹿島30代：職務標準表にのっとって仕事を行い事務職員の評価をだれに対して高めるのか、地域の住民、教職員、管理職、地教委、県教委？各機関への積極的な働きかけも必要であるが各個人が職場でそれぞれ頑張ることが必要であると思う。

藤津・鹿島40代：内容について、一人で行う事務量について高校の事務室をめざす必要はない。あれもこれもと言っていると、どの仕事も手抜きがでてくる可能性もある。

藤津・鹿島40代：町村合併が進む中で、県庁事務の合理化の中で、どのように進めていくかが、問題。

藤津・鹿島50代：自分たちの身分確保と社会的認知をさせる為には、このような表が絶対必要であり、仕事内容が増えるのでなく、積極的に関わっていく事が大切である。

藤津・鹿島50代：職務標準により、事務職員の職務内容を規定するのはいい。効率化等の方策を考えないと広範囲の仕事はこなせない。

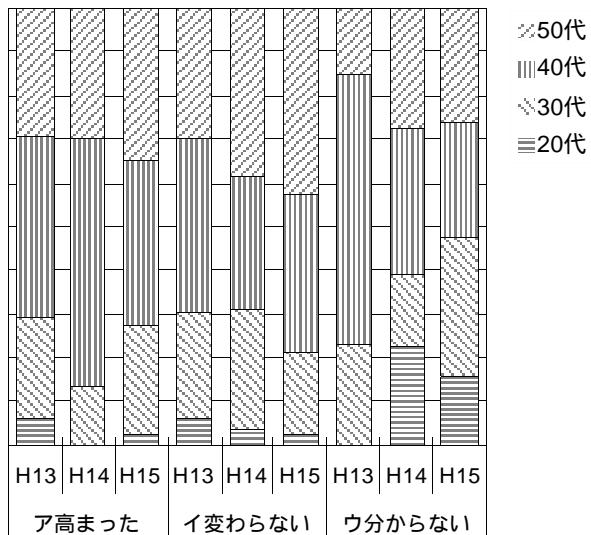
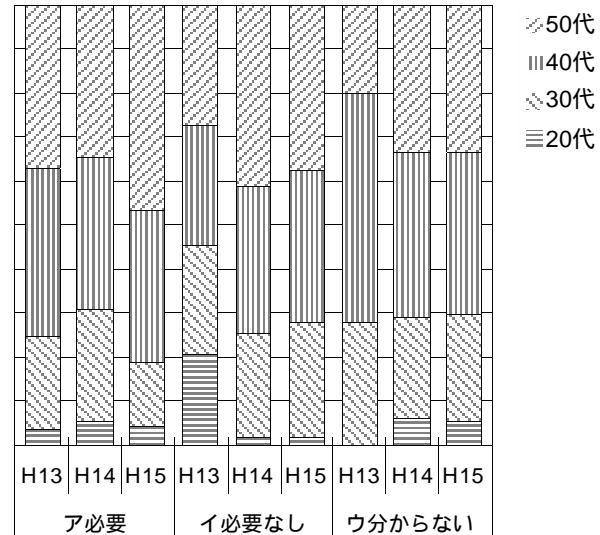
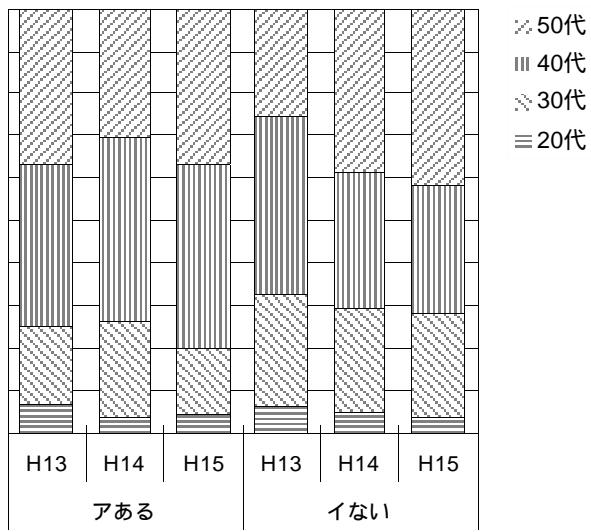
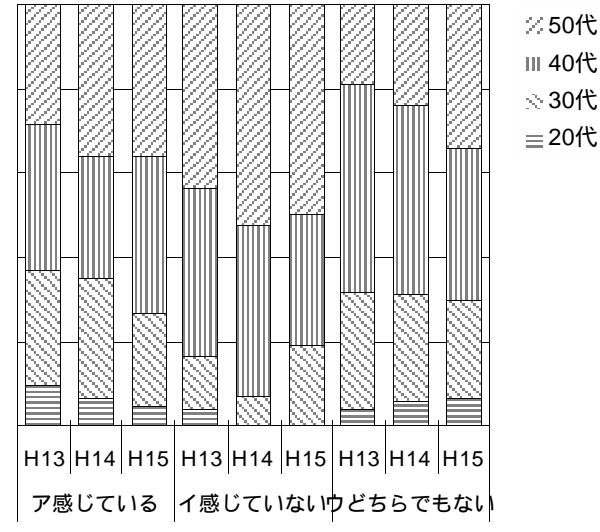
《意識と実態》アンケート集計結果

[意識と実態調査] アンケート集計表															集約数		200/254			
年代別	20代				30代				40代				50代				合計			
	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
1	1	3	3		10	23	6		15	44	5		14	52	5		40	122	19	
2	3	1	3		10	15	13		24	20	20		33	22	18		70	58	54	
3	3	4			10	29			29	35			24	48			66	116		
4	4	0	3		19	9	11		32	15	17		31	24	16		86	48	47	
5	0	7	0		6	32	1		7	54	3		13	55	3		26	148	7	
6	3	1	3		20	8	11		39	9	16		54	5	13		116	23	43	
7	2	2	3	0	4	21	11	3	6	22	30	5	5	36	18	13	17	81	62	21
8	1	3	3	0	6	16	13	4	5	21	33	5	7	31	20	13	19	71	69	22
9	3	0	4		17	3	19		32	3	29		41	10	21		93	16	73	
10	4	0	3		19	7	13		28	10	26		47	16	12		98	33	54	

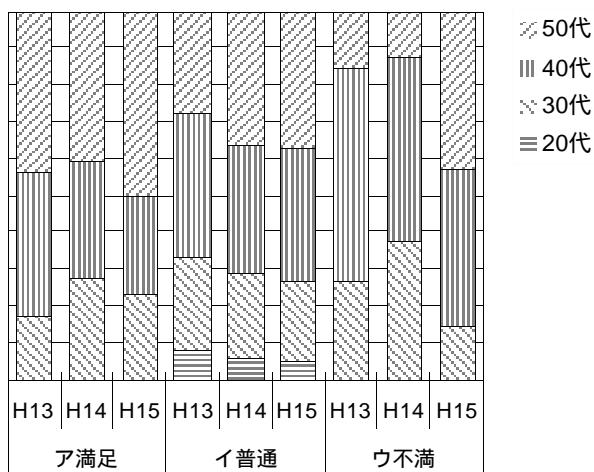
【各地区アンケート集計集約数】

三養基	小城	武雄	多久	神埼	藤津・鹿島	伊万里・西松浦	佐賀市
9	14	16	7	13	5	20	29
東松浦	唐津	鳥栖・基山	杵島	佐賀郡			地区集約数
25	16	13	17	16			200

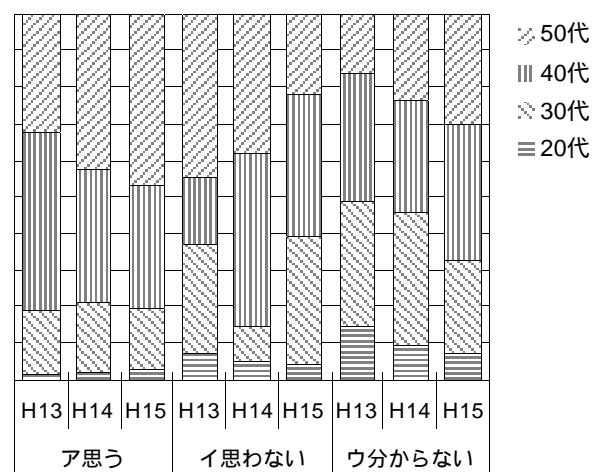
グラフの凡例マーカーがちょっと見にくいですが、ご容赦ください。

問1. 職務標準表に関して前年と比べて
あなたの意識は高まったと思いますか問2. 学校評議員会等への参加は
必要だと思いますか問3. あなたはPTA活動で
担当している係がありますか問4. あなたは、PTA活動に参加する
必要性を感じていますか

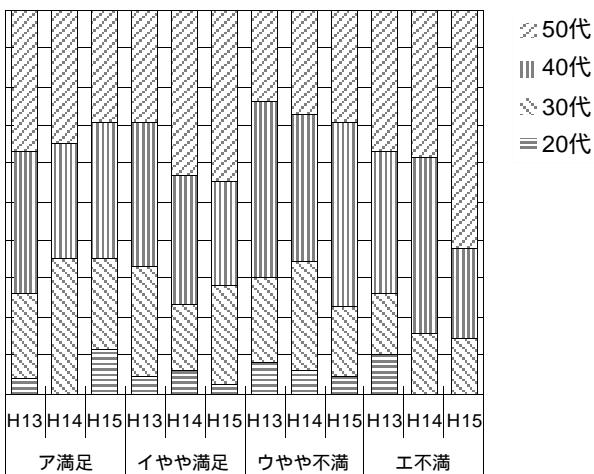
問5. あなたが職務上発言することに対する職員の反応について



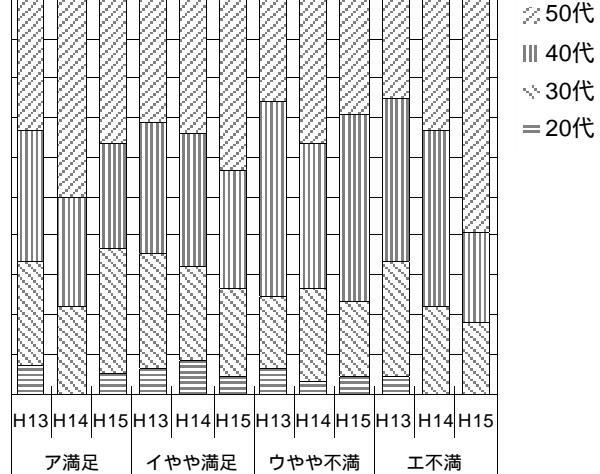
問6. あなたが職務上職員に正しくものが言っていると思いますか



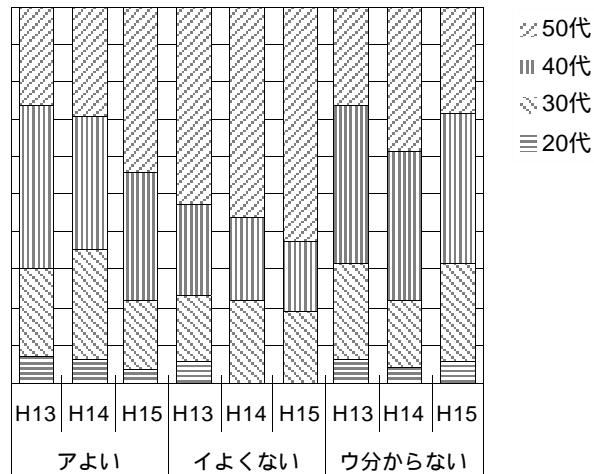
問7. あなたは、現在の職務内容について満足していますか



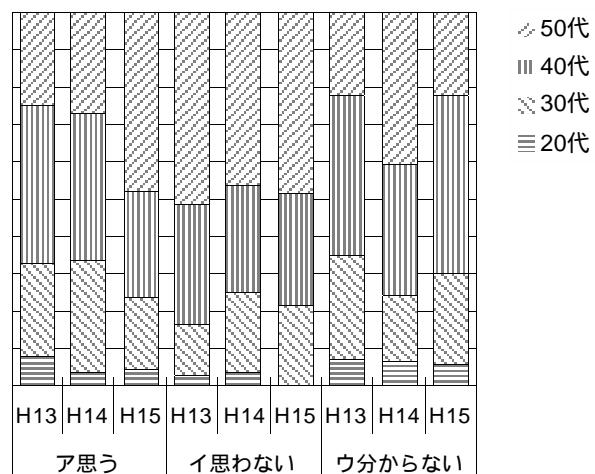
問8. 学校における給与以外の待遇について



問9. 「事務の共同実施」について、どう思っていますか



問10. 「事務の共同実施」によって事務の効率化が図れると思いますか



《意識と実態》アンケート一言欄より

- 武雄市30代：本年度は、給与事務の本庁への一元化により、特に旅費請求で戸惑うことが多かったが、共同実施の場でいろいろ情報交換ができたのでよかった。
- 佐賀市30代：例えば学校行事により仕事内容に懸念を感じることも多いです。男の市職に湯茶接待、女の事務職に雑務（デスクワーク外）も簡単に任せがちで、ユーワツに感じることもあります。
- 佐賀市40代：学校事務という職種を通して、世の中に貢献していくという意識が必要ではないでしょうか。将来を支えるこども達の未来に関わる仕事をしているのだから。多種多様な職務を通して教師及び学校支援を図り、より良い児童生徒を育成しましょう。
- 佐賀市40代：共同実施の理想と現実のギャップが大きすぎる。
- 佐賀市40代：共同実施のやり方がやはりよくわからない。
- 佐賀市50代：年に応じた、経年に応じた意識の高まりが必要なのに経年に反比例するような意識もみうけられる。すなわち、実態も同様である。
- 佐賀市50代：教育業務にまで拡大してゆくにはまだ時間がかかる。
- 伊万里市50代：「事務の共同実施」で事務の効率化は図れると思うが、数値目標を達成させられるかむずかしいところだと思う。
- 伊万里市40代：誰でも自分の利害に直接関係するものにしか積極的関心を示さない。教員他に対しても我々の職務についての理解を期待しても徒労。又、各個人個人が個別に頑張っても属人的評価以上のものに昇華しない。やはりシステムとして確立させるしか打開策はないし、それが出来ない（必要とされていない）のであれば、現状のままのスタイルは恐竜のように滅亡の道をたどるしかないので？（決して敗北主義的悲観論ではありません。いろいろな意味での「現状」リアリズムで考えた結果です。）
- 伊万里市40代：共同実施を相互チェック機能や情報交換の場として考えるなら、教育事務所の庶務係がなくなった今、必要と思う。
- 杵島郡40代：最初のアンケートから述べてましたが「事務の共同実施」については定員削減の理由づけにされるかもしれない反対の考えでしたが、市町村合併などの動きによりいよいよ現実味を帯びてきたと思います。
- 杵島郡30代：自分はPTA活動、校内の運営委員会ともできるだけ参加するようにはしていますが、県事研、その他の活動等の係の対外的なことも兼ねており普段の仕事ともあわせると実際時間が足りません。ほかの人はどういうふうにこなしてるので？
- 杵島郡30代：こっちは積極的に運営委員会に出たくて申し出たのに意図的に（？）はずされた。なぜ？・・・
- 杵島郡50代：県事研に出ているおかげで自己の意識向上につながったと思います。
- 多久市40代：学校評議員会には出席し、学校運営の観点から発言する機会も多い。ただし、期待されているほど評議員会制度が機能していくのかは疑問である。やがて、マンネリ化していくのではないだろうか？
- 多久市40代：若年の頃には、職務上の発言にしても、関連団体への関わりにしても、少なからず気後れする事もあるが、経年により、誰しも克服できる面が多いような気がする。
- 多久市40代：事務の共同実施については、「研究」としての評価は一定のものがでている。しかし共同実施が提起された前提条件である「学校の自主・自律性の確立」「裁量権の拡大」「判断業務の増」がどの程度進展し、「共同実施」がどのように対応し、効果があったのかは未だに明確にされていない。期待もしているが、不安な点もある。
- 神埼郡50代：加配をとりたいための「共同実施」であれば反対。
- 唐津市40代：事務の共同実施については、「給与の一元化の件もあり、好むと好まざるにかかわりなく、せざるをえない状況だと思います。
- 唐津市30代：「事務の共同実施」については、何のためにするか、なぜしなくてはいけないのか。事務職員も十分理解していないくてはいけませんが、それ以上に管理職にも理解してほしいと思います。そうしないと私達が「勝手にやっている、勤務中になにやっているのか」と誤解されてしまします。自分たちばかりが空回りしてしまいそうです。
- 唐津市30代：結局の所、人間関係なので自分は恵まれているのだなとは思う。他職員と意見のやりとりがスムーズにいきさえすれば、あとは本人の能力次第だし。
- 佐賀郡40代：（10の設問について、ウの回答）制度化し、権限も必要。

- 佐賀郡50代：手っ取り早く制度改正でもして頂いたホーがトシをとると現場でセコセコするのはきついものです。
- 佐賀郡50代：共同実施について思うこと。事務職員の仕事量が学校間であまりにちがいすぎる。土日出勤、毎日の残業する人がいるかと思えば、午後3時すぎから部活を毎日できる人もいる。同じ職務内容であれば、事務量の多い大規模校に余裕のある学校より支援をし、学校事務の平準化をすることが、まず必要であると思う。
- 佐賀郡50代：（設問7・8について）設問の意味がわからないので回答せず。
- 佐賀郡50代：（設問9について、ウ的回答）両刃の剣？
- 小城郡30代：日々、精勤している事には自信がある（？）のですが職務について深まつたかと言うと自信がありません。日々、勉強・研修の必要性を感じます。
- 小城郡40代：「事務の共同実施」は事務の効率化で第一義目的ではなく、事務の組織化が第一番の目的と思う。それを意識した設問の仕方にすべきであった。事務の共同実施をしないと義務制学校事務の将来はないと思う。全県的展開を早くしないと間に合わない。
- 鳥栖基山20代：何事もやってみなければ分からぬ面もあるのだから、鳥栖のケースを試金石として、注目していかなければならぬと思う。
- 鳥栖基山30代：ここ数年で佐事研の影響もあり、学校事務職員の意識はかなり変化が見られると思うが、学校での仕事に対する取り組みはあまり変わっていないと思う。意識は高まったが実態が伴っていないのではないかと思う。
- 鳥栖基山50代：共同実施は「もやい」の考え方で。
- 三養基郡40代：意識は高まっていると思うが、実態がついていってないギャップを感じる。実態との改善を事務職員共通の目的として協力してやっていければと思う。
- 三養基郡50代：給与以外の待遇とは何でしょう。給与と待遇を切り離すことは難しいと思います。
- 三養基郡50代：時代の流れと、市町村合併等を考えて共同実施をやるべきである。
- 三養基郡50代：共同実施について、情報の交換、分からぬことなど学ぶ機会が大きいにあります。しかし、日常の学校は待ったなしの様に事務処理が多くて時間を作るゆとりがない状態です。とりあえず、まず実際できるか分野を決めて共同実施できる学校を具体的に定めて実施した方が良いと思います。
- 三養基郡50代：県教委の理解度が他県に比べ、とても低い。この厳しい状況を開拓するために全事務職員がどう行動するか、今問われている。意義は変化して行動や実態に変化すると思う。
- 東松浦郡30代：現在の評議員会の在り方では不可能。
- 東松浦郡30代：以前いた学校ではPTA活動の係があつたが、今は無い。学校の都合もあるようだ。
- 東松浦郡30代：事務の共同実施については、良い点もあれば悪い点もあり、良し悪しで判断するなら現状と変わらないと思う。
- 東松浦郡30代：前向きな意識はあるが、変わらない実態がある。県学校事務職員研修会に参加して常に思うことは、地区や学校によって事務職員の職務内容・範囲に温度差があり考え方の相違があると思う。
- 東松浦郡30代：何かしなければと思う反面、日々の雑事（軽んじているわけではないが、私がしなくてはいけないという仕事ではない。手の空いた者なら誰がしてもよい事的な仕事）に追われて、振り回されてる時がある。平行して仕事をしていても、つい目の前にある（くる）仕事に入れ込みすぎる癖が悪いのだと理解しているが・・・・。
- 東松浦郡30代：職務標準表については、年度当初に事務部計画案を職員に出すときに、一緒に印刷して添付し簡単な説明をしているが、ほとんど理解されていないと思う。自分自身の反省も含めて、この件については、継続的・積極的に取り組んでいくべきではないだろうか。自分達、事務職員が行動をおこさない限り誰もしてくれる人はいないですね。頑張ります。
- 東松浦郡40代：職務の範囲が広がり、責任が重くなるに伴って、事務的スタッフ不足に苦しむ。一人でできる量には限りがある。共同実施はよい方法だが、それで解決するわけではない。
- 東松浦郡50代：給与の一元化になって、共同実施の必要性は多いに感じる。
- 藤津・鹿島30代：意識はあるが、実態はなかなかともなっていないのが現状である。
- 藤津・鹿島40代：職務標準表については、個々の意識と能力の違いで学校が不利益をこうむるということを認識すべし。共同実施も一部がひっぱって、あとはおんぶにだっこになりがちでは、する意味がない。地位の為にだけするのであればどうぞ。